

東日本大震災6年

近所の自然リスク調べる

「my減災マップ」広げる鈴木光さん

老若男女問わず、災害から生き延びる術（すべ）を日ごろから興味を持って学ぶため「my減災マップ」を広めています。

マップ作りは地図を透明なクリアファイルに挟み、自宅や学校、道路や川をマーカーキングします。次に河川の浸水想定区域図に差し替えて浸水地域を青に、さらに土砂崩れの危険箇所図にして危険場所を赤く塗っていきます。こうしたリスクを複合的に把握し、最後に自宅から避難所まで災害に応じた避難ルートを考え、書き込んで完成です。



すずき・ひかり 1975年横浜市生まれ。建設コンサルタント会社で自治体や企業の防災対策を担当、総務省消防庁の「防災図上訓練指導員」にもなった。退職後、民間団体「減災アトリエ」を設立し、防災・減災のためのワークショップなどで奔走している。

ちのほうに逃げればいいよ」と話して作成してしました。そうすることで、自分が気づかない危険にも気づけます。一人ひとりが作

り、災害時には持ち出すこともできます。親に伝えてもらうため小中学校で広めることに力を入れていきます。子供が作

たマップを見て、家族で防災を話し合うきっかけになる。母親の立ち話で子供のマップ作りが話題になれば、地域の防災を考える人が増えるかもしれません。防災を地域の人と一緒に考えるきっかけにもなりま

す。お年寄りから「昔あった大雨で、この辺が浸水した」などと話を聞けば、身近な地域でも災害が起こる、という実感を持てます。「まさか自分たちの町で起こるとは思わなかった」。熊本地震など被災地を調査で訪れると、こうした声をよく聞きます。生活する土地のリスクに無頓着な人は案外多いものです。水面（みなも）が美しい川沿いに住む、季節を感じられる山々のそばに住む……。そのすてきな風景は時として凶器に変わることを知り、自然とどううまくつきあっていくか日ごろから考えることが大切です。学校で事業化してくれる自治体も始めています。各地で、社会の地図や理科の地形の授業で取り入れてもらい、広まっていけばいいなと思っています。